
嘘と何か

勝

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嘘と何か

【著者名】

勝

Z00630

【あらすじ】

東京 新宿 噂話のあふれかえるこの町で俺・・和島 玄武。そんなん俺にとっては日常の情報集めの中でクライアントから渡された紙。

そこには聞いた事の無い手術が書いてあった。俺は苦悩の際YESと選んでしまうが・・そこから俺の非日常が始まる。

存在の無い医者

東京 新宿

この巨大都市にて俺情報屋こと和島 玄武。

俺はたまたま池袋で情報を売っていたところだった。

そんな面白話が飛び込んで来た。

「玄武先生、この手術聞いた事あるか？」

そのクライアントは等価交換に一枚の紙を俺に手渡した。

そこには“開隨手術”と書かれていた。

「なんだ?これ・・・」

紙を読み終え俺は再びクライアントを見つめた。

「こ」の手術の医者・・・谷村 黄巾だ。正確には神経学の

権威だ

その医者は普通に白衣を来ており、眼鏡をかけており、風貌だけは

普通の医者だった。

「どう?受けてみる?」

谷村と書ひ医者までして不気味な笑みを浮かべていた。

「実験か？それとも成功例はないのか？それとも若き故の余裕か？」

その笑みに俺は少し疑いを覚えた。

「ははっ・・そんな冗談でなくて良いですよ。成功例は沢山出ていますよ」

俺は軽くせりほを向いてこう吐いた。

「一週間後答えを出され」

俺はそれから約束の日まで依頼を全て断り、ひたすら考え続けた。

そして、俺は再び谷村と指定の場所で会った。

「どうするんですか？」

俺は苦渋の果てでYETIと書ひ醫師を出した。

そう言つた瞬間にきなり連れていかる。

行き着いた場所は一般の家だった。

しかし、そこにはたつた一つベッドがおいてある部屋。

俺は誘導されてベッドに横たわった。

俺は麻酔を打たれる間際、谷村に言った。

「俺がもし下半身の麻痺とかする際は“殺してくれ”」

要は脊髄の手術なんだから失敗すれば下半身麻痺ぐらいは当然だろう。

だからそんなときは殺してもうと決めていた。

「へ～え。結構肝は座ってるみたいですね～。まあ了解しました」

俺は鼻で笑つてやつた。

「では・・・・・」

・・・・・どんどん薄れて行く意識・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0063o/>

嘘と何か

2010年10月9日14時07分発行